

# 令和 3 年度

## 那須塩原市議会 所管事務調査報告書



視察期間：令和 3 年 1 1 月 1 6 日（火）

- I 視 察 地 ：群馬県川場村 川場田園プラザ  
視察内容 ：道の駅の運営について
- II 視 察 地 ：栃木県佐野市 道の駅どまんなかたぬま  
視察内容 ：道の駅の運営について

### 建設経済常任委員会

|       |         |      |         |
|-------|---------|------|---------|
| 委 員 長 | 田 村 正 宏 | 副委員長 | 益 子 丈 弘 |
| 委 員   | 益 子 丈 弘 | 委 員  | 齊 藤 誠 之 |
| 委 員   | 平 山 武   | 委 員  | 松 田 寛 人 |
| 委 員   | 眞 壁 俊 郎 | 委 員  |         |

【随 員：増田 健造、室井 理恵】

## 道の駅の運営について

視察地 川場田園プラザ

視察日 令和3年11月16日

報告者 田村 正宏

### 視察目的

道の駅「明治の森・黒磯」の再整備基本方針の決定を受け、近年道の駅に求められる役割が多種・多様化する中で、再整備が地域の活性化の拠点として機能し、那須塩原市の持続可能性を高める施設としてリニューアルすることを目的に、成功事例とされる近隣の道の駅 2 施設を調査するもの。

### 川場村の地勢

○位置 群馬県の北部地域に位置し、日本百名山の一つ武尊山の南麓に位置する

○面積 85.25 km<sup>2</sup>  
そのうち、森林が 83%

○人口 3,240 人（2020 年 8 月現在）  
高齢化率は 40%超

○交通 上越新幹線上毛高原駅から車で 40 分  
JR 上越線沼田駅から車で 25 分  
関越自動車道沼田 IC から車で 10 分

○産業 基幹産業は、農業  
米：川場産コシヒカリ（雪ほたか）をブランド化  
国際的コンクールで 12 回の金賞を受賞  
こんにゃく芋：全国生産の 9 割以上を群馬県内で生産  
りんご：ふじ、ぐんま名月、スリムレッド、陽光 etc  
その他：ブルーベリー、トマト、なす、野菜多品種

### 道の駅川場田園プラザの概要及び事業経過

#### ○管理主体

株式会社 田園プラザ川場（第三セクター）

- ・設立 平成 5 年 4 月 1 日
- ・所在地 群馬県利根郡川場村大字萩室 385

#### 番地

- ・TEL 0278-52-3711 / F A X 0278-52-3713
- ・資本金 90,000 千円（川場村：60.0% 川場リゾート㈱：11.1% ㈱世田谷川場ふるさと公社：16.6% その他 7 団体：12.3%）

#### ○事業経過

- ・平成元年～2 年の“世田谷区民健康村第 2 期の運営と整備に関する指針”の検討段階で、川場村の多機能としての田園プラザの開発と、世田谷区との事業協力の必要性が提案された。これを受け川場村過疎計画（平成 2 年）、川場村総合計画（平成 3 年）に位置づけられ、田園プラザ推進委員会・幹事会で構想が策定された。
- 平成 5 年 株式会社田園プラザ川場発足
- 平成 6 年 ミルク工房営業運営開始
- 平成 7 年 ミート工房営業運転開始、ファーマーズマーケット営業開始、公衆便所完成
- 平成 8 年 プラザセンター、研修施設、ふれあい橋（道の駅の登録）
- 平成 9 年 そば処営業開始
- 平成 10 年 ビール工房、パン工房、レストラン、物産館営業開始（田園プラザグランドオープン）
- 平成 14 年 ブルーベリー館、ブルーベリーの丘、開設
- 平成 20 年 食事処あかくら
- 平成 21 年 ホテル S L 業務開始
- 平成 24 年ピザ工房開設
- 平成 28 年 カワバプレミアムショップ開設  
ホテル S L からホテル田園プラザに名称変更

#### ○整備効果

- ・平成 24 年度にて設立 20 周年を迎え、田園プラザでは着実にその効果・成果を生み出している。
- ・現在でも売上金額、入場者数とも右肩上がりの成長をとげており、川場村の「農業＋観光」の基本理念を実現していくための重要な位置づけとなり、地域社会の発展に貢献している。

①就業機会の拡充 村内には若者が希望を持てる職場がほとんどなかった中、現在では 140 名程度の就労の場を確保。(社員：40 名 常勤パート：100 名 非常勤パート：10 名)

②地場製品の P R や村内消費が促進 田園プラザ施設内に 200 万人(令和 2 年度)が訪れ消費の拡大につながっている。また、これらに喚起され村内の農家等において新しい加工品の製造や、農産物の新品種に取り組む動きも見られ今後もさらに発展が見込まれる。

③村の交通ターミナル機能 村の入口にあり道の駅にも指定され多くの観光客や来村者が利用するようになった。公衆便所、電話、観光案内、休憩、買い物、食事、積雪時のチェーン脱着等の機能を備え、来村者の便宜を図っている。関東・甲信越地方の訪れたい“道の駅”において平成 16 年度から平成 20 年度まで 5 年連続第 1 位と道の駅の中ではトップクラスに位置づけられている。また、平成 27 年には国土交通省より重点「道の駅」へ指定される。

④新たな特産品の開発と販売促進が実現 田園プラザでは以下の商品が開発され新たな村の特産品として販売され、農産物の消費の拡大や販売促進が図られている。

- ミルク工房...飲むヨーグルト、アイスクリーム等乳製品
- ミート工房...ハムソーセージ各種
- ビール工房...地ビール各種、アップルパイ製造
- パン工房...食パン、菓子パン、食事パン等各種、アップルパイ
- ブルーベリー館...おきりこみ(あかくら)、各種ジュース・ジャム類等販売(物産センター)
- そば処...地粉を使用した手打ちそば(減反政策、川場村産そば粉の付加価値のアップ)
- レストラン...川場産農産物を活用した料理を提供

⑤農地の遊休化の防止等に寄与 ファーマーズマーケットでは平成 27 年度売上げが 5 億 5 千万円を計上。現在農産物提供者は 400 名

を超え川場村の農家の半数となり農地の遊休化防止に大きな役割を果たしている。また、会員の多くは第一線を退いた高齢者や婦人で趣味と実益を兼ねた生きがい対策ともなっている。

⑥来村者と村民の交流場所の提供 施設内では各種イベントが開催され、また、飲食店機能、インフォメーション機能も有することにより来村者と村民の交流の場所としても利用され、村民の交歓場所としても有効に活用されている。

## 考察

過去にもさまざまな道の駅ランキングで 1 位になるなど全国的にも評判、実績共にトップクラスの施設であるが、最近発売された「日経トレンディ 2021 年 9 月号」でも競争激化のなか関東エリアの道の駅ランキングで 1 位に選ばれた。このことは、人気や評判に安住することなく、努力し続けている結果の表れではないかと思う。現在の成功の遠因は、東京都世田谷区が 1979 年に世田谷区基本計画の重点プロジェクトに位置付けた「区民健康村づくり計画」の候補地に 52 市町村の中から選ばれ 1981 年に「区民健康村相互協力協定」(縁組協定)を結び、現在に至るまで様々な交流事業が継続的に実施されていることではないかと思料する。

(因みに、選定理由は「川場村には何も無いから」だったそうである) いわば、東京 23 区で最大の 94 万人の人口を擁する世田谷区民が川場村の関係人口として応援しているといっても過言ではない。もう一つの成功の要因は、2007 年に窮状を打開するために、村から事業の立て直しを依頼された地元の実業家永井彰一氏が社長に就任したことであろう。就任早々、民間で培った経営感覚を活かし、決断力と判断力で矢継ぎ早に改革を実施。以来、就任当時の入り込み客数 62 万が現在では 200 万人、売上高も 6 倍に拡大している。永井流のマーケティング論は「地産地消という名の自己満足の魔

法に陥るな、欧州のマルシェやデパ地下、広尾や成城にある洒落た店の具現化・カワバプレミアム誕生」だそうであるが、それが、駐車場に増加した県外ナンバーの高級車の列に如実に表れている。ロケーションとしては共通点の多い那須塩原市と川場村でもあり、田園プラザ川場が謳っている「都市と農山村の架け橋」に明治の森・黒磯も成る可能性を秘めているのではないかと期待するところ大である。いずれにしても、明治の森・黒磯の再整備が、自然やアートまた、日本遺産などの地域特性を活かした、地域活性化の拠点として生まれ変わることを建設経済常任委員会として応援してまいりたい。



正門前にて集合写真

## 道の駅の運営について

視察地 道の駅どまんなかたぬま

視察日 令和3年11月16日

報告者 益子 丈弘

### 概要

『道の駅どまんなかたぬま』は県南西部に、平成13年8月に栃木県内9番目の道の駅として国土交通省の登録を受け、道路管理者が整備する休憩施設と、当時、田沼町(現在の佐野市)が設置した情報提供施設や地域振興施設を一体化した(一体型)施設として整備された施設である。

平成13年11月に『道の駅どまんなかたぬま』は当時の田沼町から財団法人田沼町施設管理公社に管理運営を委託され、平成15年10月10日には「株式会社 どまんなかたぬま」が設立し、翌年4月より株式会社化して管理運営が開始し、佐野市合併後は佐野市『道の駅どまんなかたぬま』として指定管理認定を受け現在に至っている。

営業関係施設の運営内容は農産物直売所、特産品、飲食関連部門などを中心に展開されており地域内の振興や交流拠点として大いに賑わいをみせている。

### 今回の視察においての所感

設置当初から管理運営形態や施設規模、地域内環境などが様変わりするなか、開業当時からの一貫した取組姿勢や熱意を関係者一同で共有しその時々での課題を一つずつクリアして現在につながるという点は時代の変遷の中にあっても普遍的な地域振興の基本を再認識するものであった。

開業当初から施設内容は利用者ニーズや時代とともに形態を変える点、運営管理者の経営手腕は民間で得た経験と人脈などを関係者や従業員などとの意識、情報共有を常に柔軟に取り入れ、利用者、地域になくてはならない存在を追求する姿勢が印象的であった。

視察にあたり、関係各位の御協力に感謝申し上げますとともに今後の本市の更なる発展の貴重な参考とし当常任委員会で活かしてまいりたい。



道の駅での説明